

令和7（2025）年度沖縄国際大学FD支援プログラム指定プロジェクト：
「授業についてのアンケート」の見直し
－ 学修成果と自己成長の把握を意識したアンケートの作成 －

テーマ設定の背景

副学長の諮問を受け、本学で毎学期実施している「授業についてのアンケート」の内容を見直し、より学修成果と自己成長の把握を意識したアンケートの作成と実施を目指すことにした。

本指定プロジェクトの成果と課題について

(1) 成果

本プロジェクトを通じて新たに「学修振り返りフォーム（仮称）」を作成した。内容は、到達目標を達成できたかや、授業で理解したことを自分なりに深めることができたかなど、学生が自身の学びを振り返る内容とした。

「学修振り返りフォーム（仮称）」を試行したところ、より詳細に検討する必要は残るが、回答上の困難は見られないように思われ、このフォームに対する自由記述にも「振り返りに役立つ」「自分の成長が実感できた」といった肯定的な受け止めが多数を占めた。一方で「記述が面倒」「シラバスの確認に手間がかかる」「回答に時間がかかる」など、否定的な意見も一定程度存在したが、これらは学びの程度（伸長度）を測定したいという本フォームの目的に関わる部分であるため、実施する意味や意義の理解を促し学生の抵抗感を引き下げながら、実施するための準備が不可欠であることを改めて実感した。

(2) 課題

上記の成果を踏まえると、「学修振り返りフォーム（仮称）」を学修成果の可視化を促進するツールとして使用するためには、以下の課題が残っている。

①システム面の課題

現行の教務システム（Campus square）では、アンケート機能はあるが「シラバスの自動表示」や「学期・年度ごとの一括振り返り」はできないため、現行システムと連携しつつも、振り返り専用の別システムを導入・構築することが効果的かつ効率的となる可能性が高い。

②授業内での実施に向けた準備と理解

今回のフォームは、教員評価ではなく「学生自身の変化や自己評価」に特化している点が特徴のため、この目的の違いを教員に理解してもらう必要がある。また回答に約20分かかるため、「振り返りは授業の一環である」という認識を共有し、シラバスへの記載を含めた運用を検討する必要がある。

③ディプロマポリシー等との連動（目的の共有）

学修の振り返りを促すうえで最大の課題は「なぜ、何を、振り返る必要があるのか」について大学全体で共有することにある。今後は作成した設問項目と、ディプロマポリシーや各授業で設定されている到達目標との整合を図っていくことで、大学での学び全体を踏まえた学生の成長（伸び）を可視化することの前提となると考える。